公開実用 昭和60- 38918

⑩ 日本国特許庁(JP)

①実用新案出顧公開

⊕ 公開実用新案公報(U)

昭60-38918

@lnt_Cl_4

識別記号

庁内整理番号

❷公開 昭和60年(1985)3月18日

F 16 C 19/00 F 16 B 35/04 F 16 B 4/00 7127-3J C-7526-3J 7523-3J

審査請求 未請求 (全 頁)

図考案の名称

固定ボルト付フランジを有する軸受

②実 顧 昭58-131519

②出 顧 昭58(1983)8月24日

砂考 案 者 黒

正幸」

宝塚市野上6-3-12-103

创考 案 者 仁 木

奈良県北葛城郡新庄町疋田235-21

の出 顧 人 エヌ・テー・エヌ東洋

田

大阪市西区京町堀1丁目3番17号

ベアリング株式会社

砂代 理 人

弁理士 江原 省吾

外1名

書

1. 考案の名称

固定ボルト付フランジを有する軸受

2. 実用新案登録請求の範囲

明

- (1) 一対の軸道輪間に転動体を複列収容配置 し、前記軌道輪の少なくとも一方にフランジを 一体に形成し、該フランジの円周方向等配位置 に穿設した装着孔に、フランジ状頭部と外周面 に軸方向に延びる多条溝を刻設した首部とを有 する固定ポルトを締代を持って嵌入してなる固 定ボルト付フランジを有する軸受において、上 記固定ボルト首部の多条溝に対応した形状、数 の条溝を、上記装着孔に刻設し、上記固定ボル トを圧入係止した事を特徴とする固定ボルト付 フランジを有する軸受。
- 3. 考案の詳細な説明
 - イ. 産業上の利用分野

この考案は、自動車等の車輪用軸受、特に車 輪取付け用固定ボルト付フランジを一方の軌道 輪に有する軸受に関する。

(1)

口, 従来技術

近年、自動車車輪用軸受のユニット化に伴い、車輪取付け用フランジ(ハブ)と軸受の動発されて動物を一体化した車輪用軸受装置が開発されている。第1図にその車輪用軸受装置の一例を示する。第1図にその車輪用軸受装置である。では車体取付けフランジ(2a)を有する、(1)は車体取付けフランジ(2a)を有する軸受内輪、(2)は車輪取付けフランジ(2a)を有する軸受内輪、(3)は保持器(図示せず)に復列に収容配置された転動体である。

軸受内輪(2)のフランジ(2a)には、円周等配位置に固定ボルト(4)を嵌入する複数個の装着孔(5)が穿設されている。前記固定ボルト(4)はホイールリム(図示せず)搭載用ボルトであって、構造上ボルト朗を把持しつボルトであって、構造上ボルトの組を把持しつボルトの廻り止めとしてボルトの首下には前記なれている。第2図はこ(2)

了 更知 到 到 到 の固定ポルト (4) の詳細図を示し、 (4a) は ポルト首部、 (4b) はポルトねじ部、 (4c) は ボルト頭部である。また、第3図はボルト首部 (4a) の X - X 線断面図を示す。

ところで、上記構造の場合、車輪取付フラン ジ (2a) は内輪 (2) と一体に形成されている 為、例えばS53C等の機械構造用炭素鋼、SCM 420等の肌焼鋼或いはSOJ2等の髙炭素クロ ム軸受鋼を使用し、髙周波誘導加熱焼入れ或い は浸炭処理をして内輪 (2) の転走面の効果処 理を施す際の硬度アップ或いは装着孔 (5)の 加工時の切削熱による硬度アップを回避するこ とは困難であり、これにより装着孔 (5) の内 周面も硬度アップする。このように装着孔 (5) の内周面が硬化した場合、装着孔 (5) に固定 ボルト (4) を嵌入するとボルト首部 (4a) の 外周係合歯 (6) が潰れて係合できなくなった り、また係合しても走行中の繰り返し捩り及び モーメントによりボルト首部(4a)と装着孔 (5) の間にガタが生じ、最終的にはホイール

(3)

リムの弛みや固定ボルト(4)の破損になる。 そこで、上記欠点を解決する為、装着孔(5) の内間面の硬化層をリーマ等で取り除くか、防 浸炭、焼戻しを行うかしていた。いずれにせよ 、これら工程を付加することは生産性低下につ ながる。

ハ. 考案の目的

この考案は、上記欠点に鑑み、これを改良除 去する固定ボルト付フランジを有する軸受を提 供せんとするものである。

ニ. 考案の構成

この考案は一対の軸道輪間に転動体を復列収容配置し、前記軌道輪の少なくとも一方にフランジを一体に形成し、該フランジの円周方向等配位置に穿設した装着孔に、フランジ状頭部と外周面に軸方向に延びる多条溝を刻設した首部とを育する固定ボルトを締代を持って嵌入しおいて、上記固定ボルト首部の多条溝に対した形状、数の条溝を、上記装着孔に刻設し、上記固(4)

5%F

定ポルトを圧入係止した固定ポルト付フランジ を有する軸受に係るものである。

水. 実施例

第1図の車輪用軸受装置にこの考案を適用した実施例を第4図及び第5図について説明する。即ち、第4図及び第5図に示すように、内輪(2)のフランジ(2a)の装着孔(5)に固定ボルト(4)の首部(4a)の外間係合歯(6)を列記した内間係合歯(7)に固定ボルト首部(4a)の外間係合歯(6)を係合させるようになしたものである。

尚、フランジ (2a) の装着孔 (5) は、固定ボルト (4) の首部 (4a) とのガタをなくす為、該固定ボルト (4) の首部 (4a) より僅かに小径形成してある。

上記構成によれば、固定ボルト (4) の首部 (4a) とフランジ (2a) の装着孔 (5) とのガタをなくすると共に、当り面を大幅に増大させて両部材の硬度差に依る異常摩耗や繰り返し荷(5)

重に対する微動摩耗を防止できる。

第6図及び第7図はフランジ(2a)の装着孔(5)の内間係合歯(7)の他の実施例で、第6図はフランジ(2a)外方面側の径が若干小さくなるように装着孔(5)に傾斜角(θ)をつけたもの、第7図は装着孔(5)の軸方向中央部に内間係合歯(7)を刻設したものである。また、第8図は外輪(1)に車輪取付けフランジ(1a)を一体形成し、このフランジ(1a)に内周係合歯(7)を刻設した装着孔(5)を円間等配位置に複数穿設し、この装着孔(5)に固定ボルト(4)を嵌入した形式の実施例である。

へ、考案の効果

この考案は、フランジの装着孔に固定ボルト 首部の多条溝に対応した形状、数の条溝を刻設 し、装着孔の多条溝と固定ボルト首部の多条溝 が係合するように装着孔に固定ボルトを嵌入す るようにしたから、当り面積が大幅に増大され 、使用中においてもガタの発生或いは両部材の (6) 硬度差による異常摩耗を解消することができる。また、簡単な形状のため、別の工程を付加せずに従来と同等の作業能率で加工ができる。

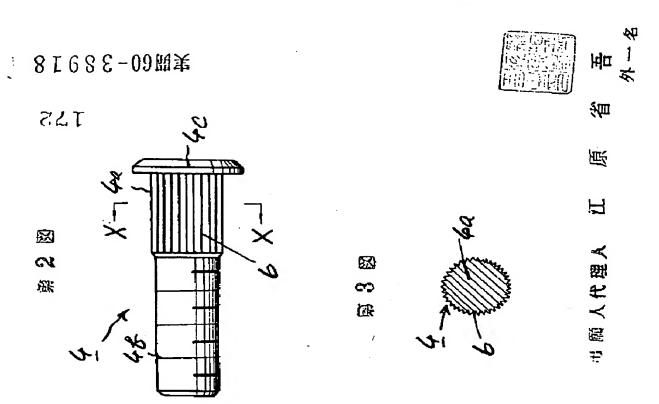
4. 図面の簡単な説明

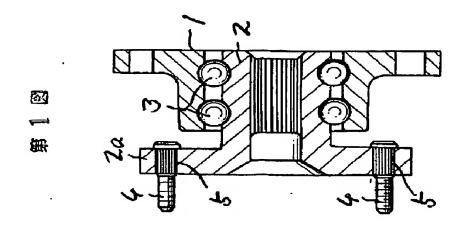
第1図は車輪用軸受装置の緑断面図、第2図は固定ボルトの詳細図、第3図は第2図のX-X線断面図、第4図及び第5図はこの考案の要部であるフランジの装着孔を示す正面図及び断面図、第6図及び第7図は装着孔に刻設した条溝の他の実施例を示す断面図、第8図は外輪にフランジを有する車輪用軸受装置の緩断面である。

(1) ……外輪、(2) ……内輪、(2a) ……フランジ、(3) ……転動体、(4) ……固定ポルト、(4a) ……ボルト首部、(5) ……装着孔、(6) ……外周係合歯、(7) ……内周係合歯。

(7)

公開実用 昭和60- 38918





This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning Operations and is not part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:
BLACK BORDERS
☐ IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
☐ FADED TEXT OR DRAWING
☐ BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING
☐ SKEWED/SLANTED IMAGES
☐ COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS
GRAY SCALE DOCUMENTS
LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT
☐ REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY
OTHER.

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.

THIS PAGE BLANK (USPTO)